

若手研究者が考える 現場への資源解析実装研究

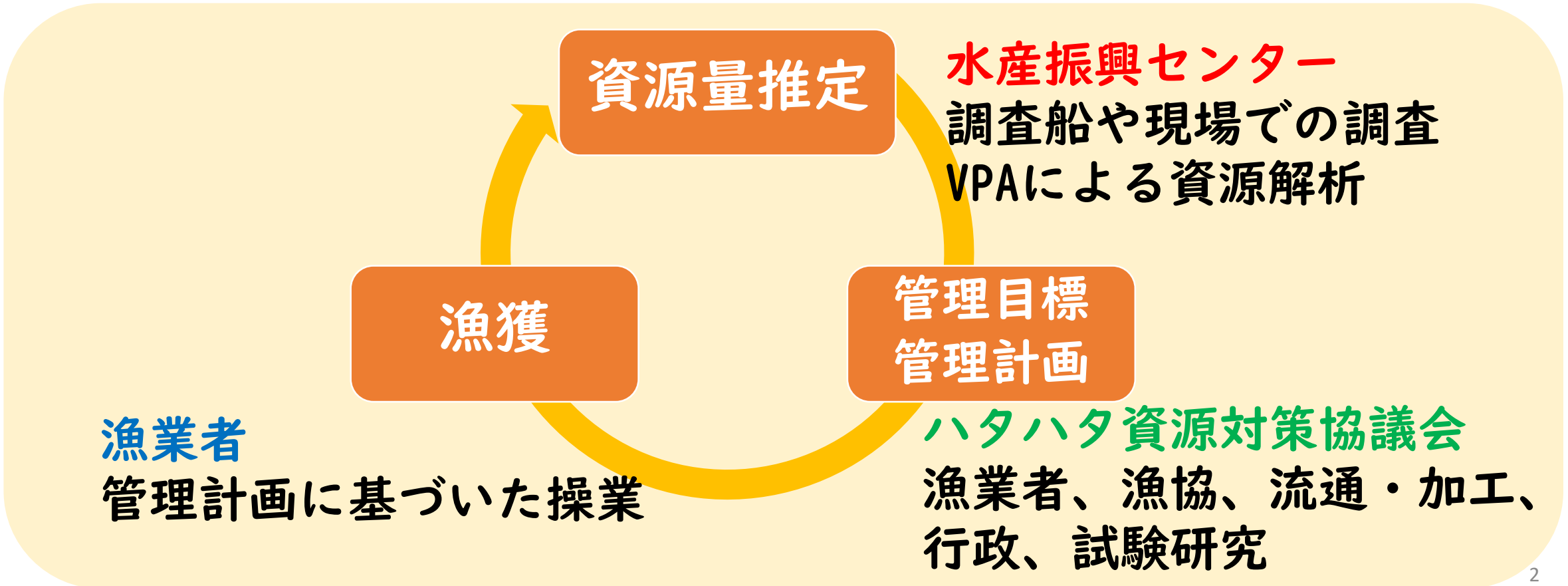
～秋田県のハタハタ漁業管理の現状と方向性～

秋田県水産振興センター 福田姫子



秋田県のハタハタ漁業管理

- ・ 漁獲量減少により1992年9月から3年間の漁業者による自主禁漁
- ・ 解禁後は漁獲枠を設定して操業→今年で25年目
- ・ 解禁後に資源回復のち減少、現在低迷



課題

①漁獲枠管理の“やりにくさ”

- ・ハタハタ資源は再生産関係不明瞭、周期的に変動
→漁獲枠管理をしているのに、資源回復の実感を得られない
- ・漁獲量管理以外の方策を模索中・・・漁獲努力量管理はどうか？

②資源解析（技術面）

- ・現場の実態を解析に取り込みみたい・・・漁業者の減少＝F減？
- ・日本海北部を広域的に回遊する資源
→隣県との共同研究推進が重要



現場と研究者の関係性

地方水試の研究者は現場に近い

メリット : 現場の実情や日々の漁海況変化を把握しやすい
デメリット : 解析が恣意的になりかねない

研究者の独立性と
解析の透明性が重要

VS

漁業者の考えに気持ち
が引っ張られる



研究者と現場の適切な距離感が大切・・・「適切」が難しい
「現場に寄り添う」とは何なのか・・・皆さんの意見を聞かせてください